

WE
MAKE
TIMELESS
BEAUTY.

SANYO LEATHER
SINCE 1911



生かそう。

生かそう。私たちが食べた牛の皮を。
生かそう。私たちが愛した革の輝きを。
生かそう。私たちが培ったものづくりの技を。
生かそう。私たちが出会った仲間との絆を。
生かそう。私たちが最初に手にした強い素材を。
生かそう。私たちが信じる本物の革を。

無駄な時代も、無駄な未来も、
ないということを私たちは知っている。

生かそう。

変わる世界の中で生まれたひとの気持ちを。
触れることで伝わるひとの温度を。
大切にすることが生み出すひとの運命を。
革は、変わることなく包みこんでくれる。
私たちがつくるのは、そういう美しさだから。



WE
MAKE
TIMELESS
BEAUTY.

SANYO LEATHER
SINCE 1911

この星の革。

水がある。

空気がある。

食物連鎖による生態系がある。

私たちはこの星の、奇跡の中で生きています。

地球から生まれた革が、地球を汚してはいけない。

その決意から、私たちの環境への取り組みは、

「水」「空気」「食」を軸にしています。

工場施設の拡充により、排水を低減にすること。

水性溶剤への移行により、排気をきれいにする。

100%食肉副産物を用い、廃棄低減に貢献すること。

山陽は、新しく加わった20代の世代とともに、

2030年を具体的な成果目標とした

サステナビリティへの取り組みをはじめました。

行政、業界、タンナー、メーカー、

そして生活者の選択と一体となり、

サステナブルな革で日本から世界を

変えることが、私たちの使命です。



SANYO'S NOW 01

タイムレスな革で、
未来につながる世界へ。

食肉副産物から生み出した、タイムレスな美しさを持つ山陽の革を、サステナビリティを基準の面でリードする世界に届けるために。山陽はいま、国内大規模タンナーの挑戦として、国際皮革環境認証LWG(レザーワーキンググループ)への加入に向けた取り組みを行っています。「水」「空気」「食」の観点を軸にした環境マネジメントシステムの確立が、SDGs達成目標を越え、素材の観点からサステナビリティを一步前に進めます。

革のアトリエ。

ある画家が、肖像画を頼まれたとする。
クライアントにとって、それは大切な自分自身の絵。
画家は、その人の本質を描き出すために、
新しい手法を見つけ、新しい色彩を発見する。
私たちの110年間は、それと似ています。

様々なものづくりから生まれた、数々の革。
姫路の本社工場は、作品を生んできたアトリエです。
布地のように薄く柔らかく加工できる「絹革」。
古来の技術を環境負荷を減らして蘇らせた「白鞣」。
ボタニカルダイを活かした「FOREST LEATHER」。
美しいシボで世界一になった「SANYO SHRINK」。
この数年だけでも、次々と新しい「作品」が
山陽のレザークリエイターたちによって生み出され、
今も新しく生まれ続けています。
革から、世界をもっとクリエイティブにする。
他社・他団体と協力し、タンナーだけでは
実現できなかった夢を、描き出していきます。



SANYO'S NOW 02

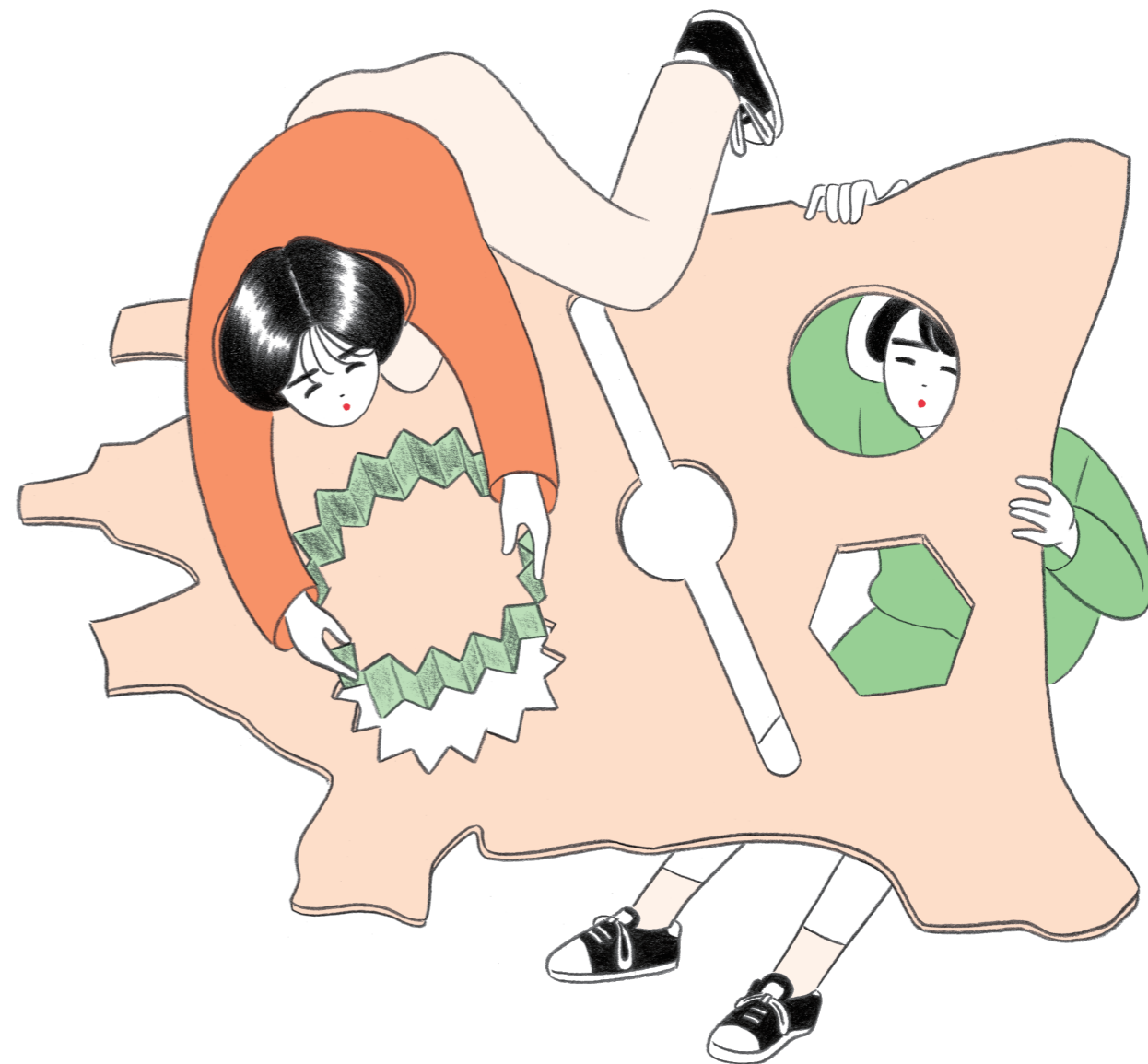
新しい白鞣し革と、
新しい美しさ。

伝統的手法と美しさから、世界に評価される姫路の「白鞣し革」。近年では、環境観点から川漬け脱毛法の採用が困難になり、伝承が危ぶまれていました。そこで山陽は、川漬けを必要としない新技術を開発。「新しい白鞣し革」の生産を実現し、販売しています。いま山陽が目指す「美しさ」は、世界に必要とされる、新しい美しさ。テクノロジーの発達を活かし、環境負荷の少ない鞣し剤にチャレンジするなど、さらに進化しています。

笑顔になる革。

それを使った人は、思わず笑顔になるだろうか。
自分だったらそれは、うれしいものだろうか。
つくる側の論理だけで、自己満足していないか。

革をつくる現場だけには、
使う人の顔を見ることができません。
私たちは、2017年から革を用いたことがない
つくり手の人たちと、革から生まれるものづくりに
取り組むオープンイノベーション
「WHOSE LEATHER」をはじめました。
アウトドアやデスクの上、身につけるもの、贈るもの。
まだ見ぬ様々なシーンのため、つくり手と一緒に
革からものをつくりながら自問する中で発見したのは、
「つくる自分が笑顔になる革で、使う人とつながりたい」
という、とてもシンプルで、温かな思いでした。
革には、まだまだ人を笑顔にできる余地が残っている。
ものづくりを通して出会った仲間の笑顔を見て、
私たちは、その思いを新たにしています。



SANYO'S NOW 03

革のある「場」を、
もっと面白く。

新しいものづくりの「場」をつくり、新しい可能性を広げるために。山陽は、タンナーの専門性と、異なるものづくりの専門性が交流できるオープンイノベーション「WHOSE LEATHER」を運営しています。「#01 Thinker」ではコクヨ株式会社様、「#02 Sharer」ではWeWork様のスペースで建築家やデザイナーと、「#03 Partner」ではペットをテーマに自然素材の染色家や職人とつながりました。

革に自由を。

世界中のどこにいても、つくったものが誰かに届く。
革を触って間もない人と、老舗のメーカーが
お互いに刺激し合うことだってある。
そんな時代だからこそ、私たちはもっと、
自由なものづくりを応援したいと思いました。

一人ひとりが自分自身の熱意で動き出し、
ものをつくる人同士が敬意でつながれるように。
そして、私たちの考える革の美しさが
新しいプレイヤーにも分かりやすく伝わるように。
山陽は、デジタルに素材を検討できる革見本帖や
一枚単位から気軽に購入できるECストアなど、
より一人ひとりに届くサービスをはじめました。
私たちがつくるのは、革だけではありません。
つくるのは、ものづくりを自由にする「場」。
それは、革を体験できるショップかもしれないし、
革のものづくりが集うフェスティバルかもしれません。
私たちはいつも、あなたとの出会いを待っています。



SANYO'S NOW 04

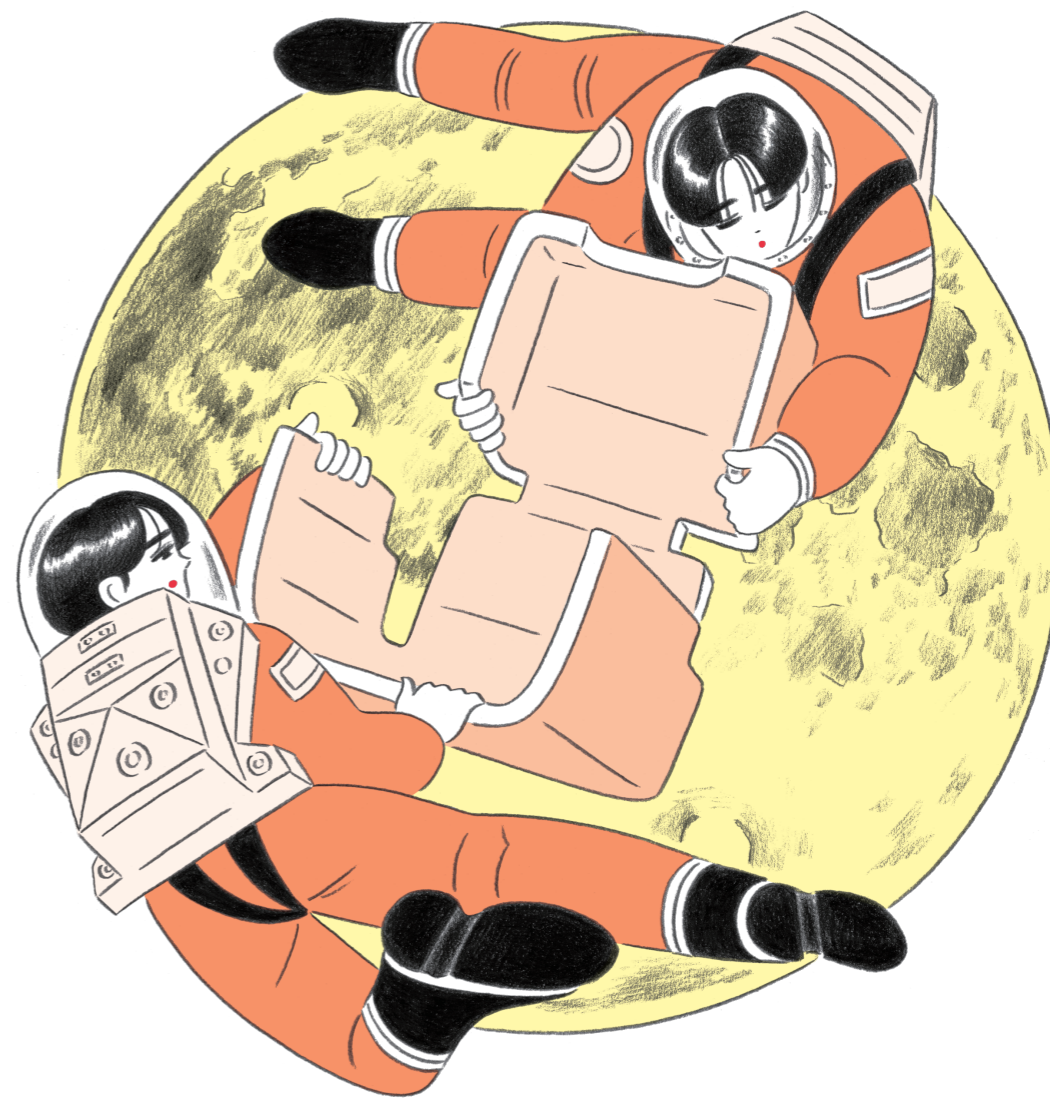
「ほしい」はきっと、
人をつなぐ。

山陽にとって最も大切なのは、ともにものをつくろうと仰ってくださるお客さま。BtoBである前に、人同士の信頼が財産です。だからこそ、一人ひとりが思いを形にしやすくするため、ヌメ革加工を網羅したデジタル見本帖「100 BASIC」や、一枚単位で革を購入できるWebストア「ONEPIECE, ONE PRICE」などデジタル施策を形にしています。サービスを育てるため、ぜひリクエストをお寄せください。

飛べ、革。

手に触れたとき、ほっとする。
自分のための場所と感じることができる。
革はときどき、ひとの居場所になる。
灼熱と絶対零度を行き来する宇宙空間にも、
息をすることもできないはるか雲の上にも、
ひとの生活スペースはどんどん広がっていく。

そのとき革は、豊かさに包んでくれるとともに
安心して命を預けさせてくれる、
信じられるモノであることが大切だと思います。
2021年2月、山陽は皮革業界ではじめて
航空宇宙・防衛産業において製品の安全性を確保し、
信頼性を向上させるマネジメントシステム規格
「JIS Q 9100」を取得しました。
いつか、最初に宇宙旅行に飛ぶ革も
データマネジメントでつくれるかもしれない。
ひとを豊かにし、ひとを守る革で、特別な体験を。
それが、令和の時代の革の出発点です。



SANYO'S NOW 05

「JIS Q 9100」取得、
信頼のラグジュアリー。

いま、増えている「特別な体験」を届ける場所。たとえば、ラグジュアリーなバスや列車の旅や、コーヒー体験を追求するフラッグシップ店、自然と豊かさを両立するキャンピングカーなど。様々な場所で非日常を演出するため、山陽の革が用いられています。そこでは美しさや手触りはもちろん、信頼性も大切。皮革業界初の「JIS Q 9100」取得は、難燃性も含む高い物性や生産管理を必要とするものづくりに応えたものです。

革の楽団。

オーケストラの楽器奏者にとって、
最も大事なものは「聴く力」だといいます。
自分の音を聴いて音色を追求するのはもちろん
他の人の音を聴いてハーモニーを合わせ、
「そのオーケストラの最高の音」をつくるのです。

国内でも最大級のチームで革をつくる
山陽の革づくりも、それと同じ。
準備、鞣製、絞り、シェービング、染色から
乾燥、バフイング、仕上げ、検査計量まで
様々なセクションの仕事から生まれる革。
一人の社員が、その専門技術を中心にした
ローテーションで様々なセクションを経験します。
一人ひとりが、プロフェッショナルであり、
全体をイメージできるマルチプレーヤー集団。
それが、山陽というチームの強みです。
今日も、一人ひとりの力を発揮し、互いを補い合う
「チーム山陽の革」を、世界に響かせています。



SANYO'S NOW 06

全メンバーが、
「これから」のチームへ。

新しい時代の山陽のミッションを発見するために。2020年、入社1、2年目の社員と、山陽ブランドの価値と、これからの時代の価値観を共有する、全12回のインナーブランディングを行いました。そこで提言されたのが「サステナビリティ」「研究開発」「ものづくり」「コミュニティ」「データ」「チーム」への取り組み。山陽はいま、若い世代が未来に希望を持てる事業を、先輩社員とともにつくるチームに生まれ変わっています。

SANYO LEATHER

sanyotan.co.jp



株式会社 山陽

Sanyo Leather Co.,Ltd

本社・工場

670-0821

兵庫県姫路市東郷町43番地

TEL.079-281-2141

FAX.079-282-5710

HEAD OFFICE / FACTORY

43 Togo-cho, Himeji, Hyogo,

Japan 670-0821

TEL.079-281-2141

FAX.079-282-5710

東京営業所

111-0032

東京都台東区浅草5丁目43番11号

TEL.03-3876-2341

FAX.03-3876-2344

TOKYO OFFICE

5-43-11 Asakusa, Taito, Tokyo,

Japan 111-0032

TEL.03-3876-2341

FAX.03-3876-2344